

2011年 頭部外傷等による重度後遺障がい者と家族の会「わかば」活動報告

わかば事務局長 横山恒

2011年を回顧する時、3月11日に発生した東日本大震災抜きに語ることはできません。わかばには青森県、宮城県、新潟県、茨城県にも会員がおられ、またその他の都県でも計画停電等で苦労なされた方が多くいらっしゃいました。震災当日からわかばでも和田代表を中心として被災地の会員の安否確認や介護用品の輸送活動等をおこないました。未だに被災地でご苦労なさっている方々にはあらためましてお見舞い申し上げます。

7月には会員にこの震災で苦労したこと、事前準備しておいてよかったこと、震災後に準備を開始したこと等についてアンケート調査を行い、9月にはそれらを受けて「災害時の人工呼吸器やその他のベッド周りの電源を必要とする医療機器や介護用品等について」というテーマの学習会を開催しました。またこれらは会報44号にまとめ、震災特集号（臨時号）として今年の2月に学習会資料と共に発送いたしました。

以下、その他の活動等につきご報告いたします。

4月16日には定期総会を開催しましたが当日は大きな余震があり会場も大きく揺れました。総会では黙祷から始め、通常ですと懇親会を行うのですが時節柄中止いたしました。総会ではわかばと全国会の会費振込方法変更等につきご理解いただき、その後ナーシングサイエンスアカデミーの原川静子先生に「簡単に安全に楽しく介護をするために～介護用品の紹介と使い方～」というテーマで講演とバランスボール等の使い方や手の微振動によるケア等を実技指導いただき、実際に全員で体験いたしました。なお総会の後ということで時間が短かったため、原川先生には今年の9月1日にも同様の講演をお願いしています。

9月17日には東京都医学総合研究所難病医療専門員の小川一枝氏に冒頭上述の講演をしていただき、併せて会員の皆様からいただいたアンケートの集計の披露や、震災を体験しての意見交換を行いました。また、当日は厚労省障害福祉課高木障害福祉専門官にもご参加いただき、介護職への医療的ケア解禁についてわかりやすく解説をしていただきました。同時にこの日は総会で中止した懇親会も開催いたしました。

本来であれば12月には全国会共催の学習会を行う予定にしていたのですが、講師のご都合により今年の2月4日に延期して、大久野病院の富加見美智子看護部長に「呼吸ケア」の講演をしていただき、吸引時の誤解をご指摘いただいたり、吸引以外の痰の出し方等をユーモアを交えて教えていただきました。参加者にとっては目からうろこの学習会だったと思います。また学習会の後は遅めの新年会を開催いたしました。

その他の活動としましてはわかばでは10年以上にわたり「ランチの会」という催しを行っております。これは普段は介護に忙しくなかなかお互いに親しくお話する機会がないため、バイキング形式のランチを食べながら時間の許す範囲で、近況や悩みを話し合うものです。昨年は1・3・5・7・11月に開催し、毎回15人前後の方にご参加いただきました。新入会の方も来られ、介護の先輩に悩みやノウハウを聞いている姿も多く見受けられました。

またわかばではミニ学習会というものも開催しています。これは地域ごとに5～10人位の会員を集めて会場を用意していただければ、わかばにご協力いただいているマッサージの先生に出向いていただき、家族ができる手技を当事者に施術していただき、それを介護者も実際に体験しながら学習するものですが、昨年は新潟にも行っていただきました。

役員会活動としましては、昨年は1・2・3・5・6・7・8・10・12月に役員会を行い、会議後には

必ず「役員会からのお知らせ」と称するお便りで各種情報やニュースをタイムリーにお届けするようにしています。また昨年も会報を 3・9 月に発行したり、手分けして関係機関への訪問や各種会合にも参加して参りました。その他には昨年からわかばでもメーリングリストを開設し、今年はこの拡充を図って参りたいと考えています。

今年は 5 月 12 日に総会を行い、9 月 1 日には全国会共催形式で上述の通り原川先生の実技指導、12 月にもテーマは未定ですがイベントを考えておりますし、5 月を除く奇数月の第 2 水曜日にはランチの会を開催いたしますので、ご興味のある方はわかば事務局までご連絡ください。